

短期海外研修が大学生の意識変化に及ぼす影響:バリ島の場合

Influence of a Short-Term Overseas Study on Change in College Student Attitudes: In Case of Bali

鈴木一代* ベティ・デボラ・アリトナン** 藤田利久***

SUMMARY The purpose of this study was to clarify the change in the college student's attitudes through a short-term study in Bali/Indonesia as well as the overall effects of the short-term overseas program. The participants were 32 students (10 males, 22 females) at two Japanese colleges. Questionnaire surveys were conducted at the last minute shortly before the short-term study started and immediately after the program completed. The results suggested that about 80% of students realized their changes in themselves and more than 60 % of them got their new views on Japanese. Furthermore, about 90 % of students were satisfied with the program, and we considered that the reason was the good support of Indonesian students as local buddies.

【キーワード：短期海外研修 意識変化 異文化理解 大学生 インドネシア・バリ島】

【Key words: short-term overseas study, change in attitudes, intercultural understanding, college students, Bali/Indonesia】

I はじめに

独立法人日本学生支援機構の「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」¹⁾によると、海外に留学する日本人大学生は、2010年度は、42,320人だったが、年々増加し、2018年度には115,146人(対前年度比9,845人増)だった。2018年度の滞在期間別の学生数の割合は、1か月未満66.5%、1か月以上3か月未満9.0%、3か月以上6か月未満10.7%、6か月以上1年未満11.5%、1年以上1.8%、不明0.6%である。2010年度においては、1か月未満46.5%、1か月以上3か月未満13.2%、3か月以上6か月未満が13.8%、6か月以上1年未満は23.4%、1年以上の留学は2.9%だったことから、1年以上の留学は減少しているのに対して、1か月未満の滞在が増加傾向にあることがわかる。留学生数をみても、1か月未満の留学は、2010年度の20,787人に比べ3倍以上になっている。1か月未満の留学が多い理由としては、大学の提供するプログラムが夏季・春季の長期休暇を利用した2～4週間のものが多いこと、および長期留学による就活や留年に対する学生の不安や学費や生活費など経済的な障壁があげ

られている²⁾。また、2018年度の日本人留学生の多い国・地域は、アメリカ合衆国19,891人(17.3%)、オーストラリア(8.7%)、カナダ(8.7%)だったが、前年度比の人数で見ると、フィリピン(21.7%増)、韓国(16.2%増)、台湾(14.4%増)、タイ(13.2%増)など、アジア諸国への留学が増加している。これは、アジアの諸大学と協定を結んでいる大学や、アジアに拠点を設置する大学が増えていることによるものと考えられる²⁾。すなわち、近年、大学生の海外留学に関しては、長期留学よりも短期海外研修の重要性が増しているとともに、地理的に遠い欧米圏よりもアジア圏が選択される傾向があるといえる。

異文化理解や国際交流の促進を意図した短期海外研修(語学研修を含む)を実施している大学・短期大学は数多く存在するため、短期海外研修に関する調査や報告書は少なくない。たとえば、加藤(2020)³⁾、稲葉(2015)⁴⁾、三原・他(2017)⁵⁾、林・鈴木(2014)⁶⁾、鈴木・林(2017)⁷⁾である。大学における短期海外研修を通じた国際交流の実践と成果に関する研究についてのレビューをおこなった三原・他(2017)⁵⁾は、短期海外研修の目的が、①語学研修・異文化理解(英語の授業へ

* こども学科 講師

** マハサラスワティ大学 講師

*** こども学科 教授

の参加, ホームステイ), ②専門的交流, 特に保健福祉領域(保健福祉領域の学生との交流, 施設・病院の見学プログラム)であること, これらの国際交流によって, 学生の語学力や学習意欲の向上, 異文化への理解と適応, 滞在国のイメージの改善などがみられたことに言及している。また, 日本人学生は海外留学や国際交流に興味・関心を示しながらも, それを妨げる要因が就職, 費用, 語学力不足などへの不安であること, 世界の安定と平和への貢献や学生の教育向上のために大学における短期海外研修が必要であることを指摘している。看護系の短期海外研修に焦点を絞った文献を検討した加藤(2020)³⁾は, 研修内容の報告と参加者の主観による客観性に欠ける調査報告が多いとしながらも, それらの多くが短期海外研修の有効性を示していることに, また鈴木・林(2014)⁶⁾も短期留学プログラムは学生の言語的・情意的両側面に肯定的な影響を及ぼすことに言及している。

ところで, 日本とインドネシアは, 1958年に, 両国間の平和条約と賠償協定を締結し, 国交を正常化して以来, 経済的な相互依存を背景に良好な関係を築いている。バリ島(州)は, インドネシア共和国の1万3千余りの島々の一つであり, 東経115度, 南緯8-9度に位置している。面積は約5600Km², 亜熱帯気候で高温多湿である。バリ州は, インドネシアの中で唯一バリ・ヒンドゥ教徒が大半を占めており, 固有の言語(バリ語), 伝統, 文化を保持している。また, 1980年代後半ごろから, 著しい観光開発が進み, 有数の国際的観光地でもあり, 州都デンパサールを中心に, 多様な文化的背景をもつ人々が滞在している。1990年代初頭に, バリー東京間の日本航空の直行便が就航して以来(2010年まで, 2018年以降ガルーダ・インドネシア航空との提携直行便運航), 日本人観光客が増加し, 2000年代にはピークを迎えた。バリ人との国際結婚日本人や定年退職後の日本人移住者も多い。日本からの飛行時間は約6-7時間だが, 日本人・日系人に対して友好的であり, 日本語も高く評価されている。

近年, バリ州にある大学のなかにも, 日本の大学と協定を結び, 学生間の交流や共同研究をおこなおうとする大学が増えている。日本語科を有するデンパサールの私立M大学では, 日本の大学との国際交流の活発化に伴い, 日本人学生のための

短期間の「バリ短期研修プログラム」の実施を開始した。「バリ短期研修プログラム」は, 参加費用を抑えることによって学生の負担を軽減していることと, 日本人学生の語学力不足や滞在中の不安を解消し快適に過ごすことが可能なように, 日本語を勉強している現地学生と日本人学生がバディを組むことを特色としている。特に, バリにおける研修期間中, 日本人学生が, 授業, 見学, 文化体験などの一連のプログラムに現地学生バディといっしょに参加することによって, 学生同士の交流が自然におこなわれることを重視している。なお, 研修期間は1週間から2週間程度である。

本稿では, 「バリ研修プログラム」に参加し, 現地の人々や文化と触れ合うことによる, 日本大学生の意識の変化, および研修プログラムによって得られる効果を把握することを目的とする。そのため, 研修プログラム開始直前と終了直後に調査を実施する。また, 今後の国際交流を効果的に推進するために, プログラムをどう改善していけばよいかも検討する。なお, 本バリ研修プログラムは開始されたばかりであるため, 本研究は, 今後予定している調査のパイロット・スタディである。

II 方法

(1) 調査参加者

調査参加者は, 「バリ短期研修プログラム」に参加した日本の2つの大学の学生(A大学17人, B大学15人)合計32人である。内訳は, 男性10人, 女性22人, 学年別では, 1年生4人, 2年生14人, 3年生14人である。海外渡航経験のある学生は17人(男性2人, 女性15人)で, 滞在期間は, 1週間以内5人, 1週間から2週間以内5人, 3週間3人, 7週間から9週間2人であり, 3人に2回以上の渡航経験があった。渡航先は, アジア8人, ヨーロッパ5人, アジアとヨーロッパの両方が4人だった。

(2) 調査日時・場所

調査は, 各大学のバリ研修プログラム実施の時期に合わせておこなった。A大学は2019年9月2日から10日(9日間), B大学は2020年2月10日から16日(7日間)であり, それぞれ, 研修開始前(事前調査)と研修終了時(事後調査)

に調査を実施した。調査場所は、事前調査は、調査参加者の宿泊先とM大学教室、事後調査については、宿泊先や空港である。

(3) 調査方法

① アンケート調査である。調査内容(項目)は、調査目的に基づき、先行研究を参照して作成された。これまでの海外渡航経験などの調査参加者の属性、および研修実施前(事前調査)では5つの質問項目、研修実施後(事後調査)については、8つの質問項目が含まれている。事前調査の内容は、海外での活躍希望、インドネシア人のイメージ、インドネシア(バリ)文化への興味、研修への期待、事後調査の場合は、研修への期待を除く事前調査の質問項目に加え、自身の変化、日本/日本人の見方の変化、受け入れ体制や研修プログラムについての評価であり、3件法か、5件法、あるいは自由記述による回答からなる(アンケート1およびアンケート2参照)。

② 筆者のひとりである、日本語が可能な現地教員が調査を実施した。事前調査の場合は、バリ到着直後、宿泊施設あるいは教室で参加者にアンケート用紙を配り、その場で記入してもらい回収した。事後調査では、研修最終日に、宿泊施設、あるいは出発空港でアンケートを配布し、回答してもらい回収した。事前・事後調査とも、所要時間は10分から15分程度だった。

③ 調査の際には、調査参加者に、調査目的および守秘義務について十分に説明したうえで、同意を得られた場合のみ調査を実施した。また、個人情報取り扱いについては、個人が特定されないように十分留意した。

(4) 調査データの整理・分析

回収したアンケート調査は、事前、事後のそれぞれで整理したうえで、記述統計的な処理をおこなった。また、事前・事後とも同一の質問に関しては、両者の比較検討をした。

III 調査結果

表1は、事前調査(質問1から4)の結果(自由記述項目以外)、および事前調査と同じ質問項目の部分の事後調査(質問1から3)の結果、表2は、事後調査(質問4から6)の結果(自由記述項目以外)を示している。

1 事前調査

質問1「将来海外で活躍したいと思いますか」については、「はい」が14人(43.8%)、「どちらでもない」が15人(46.9%)、「いいえ」は1人(3.1%)、不明が1人(3.1%)、無回答が1人(3.1%)だった。質問2「インドネシア人についてどう思いますか」の回答は、25人(78.1%)が「よい」、4人(12.5%)が「やや良い」、3人(9.4%)が「どちらでもない」で、「やや悪い」「悪い」と回答した人はいなかった。「よい」が多かった($p < 0.001$)。質問3「インドネシア(バリ)文化について興味ありますか」に対しては、20人(62.5%)が「ある」、10人(31.3%)が「ややある」、2人(6.3%)が「普通」と回答しており、「ややない」「ない」はなかった。興味がある人が多かった($p > 0.001$)。質問4「バリ研修についてあなたは期待していますか」については、「期待している」が21人(65.6%)、「やや期待している」が7人(21.9%)、「どちらでもない」が4人(12.5%)で、「やや期待していない」「期待していない」という回答はなかった。「期待している」人が多い($p < 0.001$)。「期待している」と「やや期待している」の合計は28人(87.5%)だったが、そのうち、具体的な内容(質問5)をあげたのは26人(92.9%)だった。主な回答(複数回答)は、「現地の文化、生活、歴史などを知ること」(「日本とは違う文化、生活を知ることができる」「バリの文化や歴史について学べるから」など)[15人/57.7%]、「現地の人々との交流や友だちづくり」(「学生との交流」「友だちをつくる」など)[11人/42.3%]、「観光・買物」[3人/11.5%]、「新しい発見や刺激」[3人/11.5%]だった。

2 事後調査

質問1「将来海外で活躍したいと思いますか」には、19人(59%)が「はい」(59.4%)、12人(37.5%)が「どちらでもない」と答え、「いいえ」はなかったが、無回答が1人(3.1%)いた。質問2「インドネシア人についてどう思いますか」については、31人(96.9%)が「よい」、1人(3.1%)が「やや良い」で、「どちらでもない」はなかった。「よい」が多かった($p < 0.001$)。質問3「インドネシア(バリ)文化につ

表1 事前調査の結果（質問1から4）および同項目の事後調査（質問1から3）の結果

	質問	研修 前後	回答				
			はい	どちらでもない	いいえ	不明	無回答
1	将来海外で活躍 したいと思いま すか						
		前	14 (43.8%)	15 (46.9%)	1 (3.1%)	1 (3.1%)	1 (3.1%)
		後	19 (59.4%)	12 (37.5%)	0 (0%)		1 (3.1%)
2	インドネシア人 についてどう思 いますか		よい	やや良い	どちらでもない	やや悪い	悪い
		前	25 (78.1%)	4 (12.5%)	3 (9.4%)	0 (0%)	0 (0%)
		後	31 (96.9%)	1 (3.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
3	インドネシア（バ リ）文化について 興味ありますか		ある	ややある	普通	ややない	ない
		前	20 (62.5%)	10 (31.3%)	2 (6.3%)	0 (0%)	0 (0%)
		後	21 (65.6%)	10 (31.3%)	1 (3.1%)	0 (0%)	0 (0%)
4	バリ研修につい てあなたは期待 していますか	前	期待している	やや期待し ている	どちらでもない	やや期待して いない	期待してい ない
			21 (65.6%)	7 (21.9%)	4 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)

表2 事後調査の結果

	質問	回答					
		はい	どちらでもない	いいえ			
4	バリ研修に参加したことによ って貴方自身に変化がありま したか。	はい	どちらでもない	いいえ			
		25 (78.1%)	7 (21.9%)	0 (0%)			
5	バリ研修に参加して日本それ から日本人についての見方が 変わりましたか。	はい	どちらでもない	いいえ			
		20 (62.5%)	12 (37.5%)	0 (0%)			
6	M大学の受け入れ体制について どう思いますか。	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
		27 (84.4%)	2 (6.3%)	2 (6.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3.1%)

いて興味ありますか」の回答は、「ある」が21人（65.6%）、「ややある」が10人（31.3%）、「普通」が1人（3.1%）で、「ややない」「ない」はいなかった。「ある」が最も多い（ $p < 0.001$ ）。質問4「バリ研修に参加したことによって貴方自身に変化がありましたか」に対して、25人（78.1%）が「はい」、7人（21.9%）が「どちらでもない」と回答し、「いいえ」はひとりもいなかった。「はい」が圧倒的に多かったが（ $p < 0.001$ ）、そのうち24人が何が変わったかについて言及（複数回答）している。それらを整理すると、「自分の考えによる行動/積極的に行動すること」（「自分が

何にでも挑戦できるようになった」「自分たちで考えて行動することができた」「自分から話しかけられるようになった」などが8人（33.3%）、「バリ人・インドネシア人のイメージ」（「バリ人のイメージが変わった」「インドネシア人たちの印象が変わりました」など）、および「人との接し方（思いやり）」（「人との接し方、バリの人のようにもっと優しくしたいと思った」「人に思いやりを思うこと」など）がそれぞれ4人（16.7%）、さらに、「語学習得への意欲」および「海外や異文化への興味」が各3人（12.5%）、そのほかが3人（12.5%）だった。質問5「バリ研修に参加して

日本それから日本人についての見方が変わりましたか」については、「はい」が20人(62.5%)、「どちらでもない」が12人(37.5%)で、「いいえ」はいなかった。「はい」が多かった(0.002 < P < 0.001)。「はい」の場合に、何が変わったかを尋ねると、20人のうち17人が回答し、そのうち14人(82.4%)が、バリ人・インドネシア人との比較において、「日本人の否定的な性質」をあげていた。具体的には、日本人は、「消極的」「神経質」「冷たい」「自己中心的」「セカセカと急いでいる」「静かすぎる」「オープンになってもよい」「おおらかになってもよい」などである。そのほかは3人だったが、そのうち一人は、「日本はとてもきれいな国だなと思いました」と述べていた。

以上は、調査参加者自身の意識や考え方についてだったが、次に、短期海外研修自体に対する評価についての質問項目(質問6から質問8)の結果を取りあげる。質問6の「M大学の受け入れ体制についてどう思いますか」の回答は、「満足」が27人(84.4%)、「やや満足」と「普通」が各2人(6.3%)で、1人が無回答で、「満足」が多かった(P < 0.001)。「満足」と答えた人の理由としては、「バディ等による丁寧なサポート」(「バディがすごく優しく活動しやすかった」「バディがずっと一緒にいてくれて嬉しい」「バディが全てに日本人のサポートを丁寧にしてくれている」「先生やバディ、生徒が私たちがwelcomeな気持ちがつたわってきて、来て良かったと思ったから」「すごくみんなやさしい」など)で23人(85.2%)、「短期海外研修プログラムの内容」(例「楽しい授業が良く考えられていた」)が4人(14.8%)、その他が2人だった。なお、「普通」という回答の理由としては、「自由があまりなかったのが不満です」と「もう少し英語以外の授業を体験したかった」があげられていた。質問7「バリ研修のプログラムの中で、どんな活動が一番良かったと思いますか」に対しては、全員が回答(複数回答)し、「川下り」が9人(28.1%)、「ホームビジット・ホームステイ」が6人(18.8%)、「バディといっしょの行動」が4人(12.5%)、「全部」が3人(9.4%)、「文化体験」と「現地の人へのインタビュー」が各2人(6%)、その他が6人(18.8%)、そして「特になし」が1人だった。質問8「バリ研修のプログラムの中、どんな活動が

良くなかったと思いますか」に対しては、32人中22人(68.8%)が回答しているが、そのうち12人(54.5%)が「特になし/なし」、2人(9.1%)が「全部よかった」と答えている。なお、「待ち時間が長かったわりにタイトスケジュールだったと思います」(1人)や「待ち時間が長かった」(1人)と述べた人もいた。

3 事前調査と事後調査の比較

質問1から3の3項目については、事前調査および事後調査で尋ねているが、両者の結果の対比は表1に提示されている。

質問1「将来海外で活躍したいと思いますか」については、「はい」は、事前14人(43.8%)に対し事後は19人(59%)、「どちらでもない」は事前15人(46.9%)に対し事後12人(37.5%)、「いいえ」は事前1人(3.1%)、事後はいなかった。質問2「インドネシア人についてどう思いますか」については、事前25人(78.1%)、事後31人(96.9%)が「よい」、事前4人(12.5%)、事後1人(3.1%)が「ややよい」、事前3人(9.4%)だけが「どちらでもない」と回答しており、事後はいなかった。また、事前事後とも「やや悪い」「悪い」と回答した人はいなかった。質問3「インドネシア(バリ)文化について興味ありますか」については、事前20人(62.5%)、事後21人(65.6%)が「ある」、事前事後とも各10人(31.3%)が「ややある」、事前2人(6.3%)と事後1人(3.1%)が「普通」と回答し、両者とも「ややない」「ない」を選択した人はいなかった。なお、どの質問項目に関しても、事前と事後の結果の間に、統計的な有意差はみられなかった。

IV 考察

1 短期海外研修による学生の意識変化

「将来的な海外での活躍」(質問1)、「インドネシア人に対するイメージ」(質問2)、「インドネシア・バリ文化への興味」(質問3)が研修開始前と研修終了後では変化したかどうか(表1参照)、さらに「自身の変化」(質問4[事後])および「日本人/日本についての見方の変化」(質問5[事後])(表2参照)について検討することによって、海外短期研修体験が学生の意識に及ぼす影響を把握

する。研修前と研修後には統計的有意差はなかったが、ここでは、傾向について言及する。

まず、「将来的な海外での活躍」については、研修前（約47%）に比べ、研修後（約60%）は、海外で活躍したいと思う学生がやや増えているようだった。次に、「インドネシア人のイメージ」については、研修前よりも、研修後は、「よい」と「ややよい」の合計が、約90%から100%（全員）になっていた。短期海外研修が、現地の人への理解を深め、肯定的なイメージに変化することについては多くの調査結果によって指摘されている（三原・他、2017⁵⁾など）。「インドネシア（バリ）文化への興味」に関しては、「ある」と「ややある」の合計は、研修前約94%、研修後約97%で大きな変化はみられなかった。バリ研修に当初から期待をもって参加している人が9割近く（「期待している」「やや期待している」）おり、その6割弱が、「現地の文化、生活、歴史などを知ること」、4割強が「現地の人々との交流や友だちづくり」に期待していたことから理解できる。すなわち、海外研修へは、当初からインドネシア（バリ）文化に興味をもっている人が参加していること、また、滞在中にその興味が損なうような体験はなかったことなどに由来するものと考えられる。

海外短期研修に参加したことによる「自身の変化」（質問4）については、変化があった学生が80%弱おり、多くの学生が自身の変化を感じていた。また、具体的な変化として、最も多かったのが、「自分の考えによる行動/積極的に行動すること」（回答者の1/3）だった。海外研修は学生の自律や積極性を促進するという大きな教育効果があると考えられる。日本人についての見方の変化（質問5）については、6割強の学生が変化を認識していたことから、短期海外研修が、日本人に対する見方にも影響することがわかる。そのうちの約8割が、バリ人・インドネシア人との比較において、日本人の否定的な面（性質）をあげていた。具体的には、日本人は、「消極的」「神経質」「冷たい」「自己中心的」「セカセカと急いでいる」「静かすぎる」「オープンになってもよい」「おおらかに なってもよい」などである。前述したように、海外研修の効果のひとつとして現地人のイメージが上昇し、それに対し、日本人の欠点が目についたためと思われる。また、バディ等のサポートの成

果であり、それによりインドネシア人のイメージがより肯定的に変化したとも考えられる。

2 短期海外研修に対する学生の評価

大学の受け入れ体制（質問6）、および研修プログラム（質問7、質問8）をとりあげ、短期海外研修への学生の評価について言及する。

「大学の受け入れ体制」については、約9割が満足していた（「満足」と「やや満足」の合計）。満足している理由としては、「バディ等による丁寧なサポート」（85.2%）が圧倒的に多かった。バディや教員等のサポートが短期海外研修の満足度に大きく作用しているといえる。次に、バリ研修のプログラムについては、一番良かった活動は意見が分かれたが、3割弱が「川下り」をあげていた。日本ではなかなかできない体験のためかもしれない。なお、良くなかった活動はないと思っている人が多いことから、「バリ短期研修プログラム」がある程度満足のいくものであり、適切な内容であったことが推察される。

V 結論と今後の展望

本稿では、「バリ短期研修」に参加した学生32人（男性10人、女性22人）を対象に、短期海外研修に参加することによる大学生の意識の変化、および短期海外研修によって得られる効果を把握するために、研修プログラム開始直前と終了直後にアンケート調査を実施した。

その結果次のことが明らかになった。

(1) 「将来的な海外での活躍」、「インドネシア人のイメージ」、「インドネシア（バリ）文化への興味」については、短期海外研修の影響は明確ではなかった。しかしながら、インドネシア人についてはより肯定的なイメージをもつ傾向がみられた。

(2) 学生の多くが、短期海外研修に参加したことによって、自分自身が変化したことを自覚していた。特に、自分自身の考えで行動したり、自分から積極的に行動するようになったと言及している。また、日本人についての見方も変化し、消極的、神経質、冷たい、自己中心的などの日本人の否定的な面（性質）に気づいた学生が多かった。

(3) 大学の受け入れ体制については、学生の

満足度は高かったが、その際に、現地学生のバディの存在が大きかった。また、「バリ短期研修プログラム」も適切な内容だったことが推察された。

次に、本研究の課題や今後の展望について言及したい。

(1) 本研究はパイロット・スタディであり、調査対象者数も少ないために、大まかな分析にとどめている。今後、調査対象者を増やすとともに、性別や海外渡航経験の有無等を考慮した詳細な分析が必要であろう。また、アンケート調査だけではなく、個別/グループインタビューによって、調査結果を掘り下げていくことも重要であろう。

(2) 短期海外研修への参加が、その直後だけではなく、学生の将来（職業選択や人生など）にどのような影響を及ぼすかを把握することは大切である。そのためには、継続的な追跡調査や海外研修体験者と未体験者との比較検討も有用であろう。

(3) (1) および (2) によって得られた知見によって、短い期間であってもより効果的な短期海外研修のあり方を検討し、研修プログラムを充実させていくことが望まれる。

総合すると、「バリ海外研修」のように、1週間から10日程度のかかなり短い海外研修であっても、学生へのポジティブな影響は大きいことが示唆された。また、その際に、現地学生バディが有用な役割を果たしたことが明らかになったことは、今後、短期海外研修プログラムをさらに充実させるための手掛かりになると考えられる。

短期海外研修による国際交流や異文化体験は、経済的負担も少なく、短期間であっても、学生の意識や将来に及ぼす肯定的な影響は大きい。コロナ禍のなかで、海外研修の実施は困難な状況だが、インターネットによるオンライン海外研修の可能性を模索することも一案であろう。多面的な可能性を視野にいたした短期海外研修プログラムの開発が重要であろう。

謝辞

「バリ短期研修」に参加し、本調査にこそよくご協力いただいた各大学の調査参加者に感謝い

たします。

引用文献

- 1) 文部科学省. 令和2年4月22日 外国人留学生在籍状況調査及び日本人の海外留学者数等について
https://www.mext.go.jp/content/20200421-mxt_gakushi02-100001342_1.pdf
(2020年9月10日閲覧)
- 2) Education Center. 日本人学生の海外留学者数の推移まとめ!
<https://educationcareer.jp/magazine/datareport/2019/number-study-abroad/>
(2020年9月10日閲覧)
- 3) 加藤 穰. 看護系大学における短期海外研修の現状と課題. 石川看護雑誌, 2020, 17, p1-10.
- 4) 稲葉みどり. 米国短期研修の教育的効果の考察—現地での活動の省察レポートの分析を通じて. 教育と教養, 2015, 15, p.7-16.
- 5) 三原 博光・日高陵好・國定美香・金井秀作. 大学における短期海外研修を通じた国際交流の実践とその効果. 人間と科学 (県立広島大学保健福祉学部誌), 2017, 17 (1), p. 59-674.
- 6) 鈴木理恵・林千賀. 海外語学短期留学の効果—学生の言語的・情意的側面に見られる変化. 関東甲信越英語教育学会誌, 2014, 28, p. 83-96.
- 7) 林千賀・鈴木理恵. 海外語学短期留学がもたらす効果の持続性—学生の言語的・情意的側面に見られる変化. 関東甲信越英語教育学会誌, 2017. 31, p.15-28.

「バリ研修に関するアンケート」

アンケート1

私は、 大学外国語学部日本語教員の です。このアンケートは、国際交流の影響を探ること、また、受け入れ側として受け入れの体制について評価を聞き今後より良い受け入れ体制を提供することを目的として、アンケートを実施することになりました。そのために、バリ研修の事前と事後、アンケートを2回ご記入の協力をして頂きたいと思っております。個人のプライバシーの保護については十分配慮し、ご迷惑をおかけすることはありません。研究目的以外には使用いたしません。上記の趣旨を理解いただき、率直にありのままのお考えをご回答ください。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 将来海外で活躍したいと思いませんか

1, はい 2, どちらでもない 3, いいえ

2. インドネシア人についてどう思いますか

1, よい 2, やや良い 3, どちらでもない 4, やや悪い 5, 悪い

3. インドネシア（バリ）文化について興味ありますか

1, 興味があります 2, やや興味があります 3, 普通 4, あまり興味がありません 5, 興味がありません

4. バリ研修についてあなたは期待していますか

1, 期待しています 2, 少し期待しています 3, どちらでもありません
4, あまり期待していません 5, 期待していません

5. 「期待しています」「少し期待しています」の場合は、具体的にあげてください。

学年 : 1年生 2年生 3年生 4年生

性別 : 女 男

海外滞在経験 : あり なし

「あり」の場合は、どこ_____ 滞在期間_____

ご協力をありがとうございました。

「バリ研修に関するアンケート」

アンケート2

私は、 大学外国語学部日本語教員の です。このアンケートは、国際交流の影響を探ること、また、受け入れ側として受け入れの体制について評価を聞き今後より良い受け入れ体制を提供することを目的として、アンケートを実施することになりました。そのために、バリ研修の事前と事後、アンケートを2回ご記入の協力をして頂きたいと思います。個人のプライバシーの保護については十分配慮し、ご迷惑をおかけすることはありません。研究目的以外には使用いたしません。上記の趣旨を理解いただき、率直にありのままのお考えをご回答ください。どうぞよろしく願いいたします。

1. 将来海外で活躍したいと思えますか

1, はい 2, どちらでもない 3, いいえ

2. インドネシア人についてどう思いますか

1, よい 2, やや良い 3, どちらでもない 4, やや悪い 5, 悪い

3. インドネシア（バリ）文化について興味ありますか

1, 興味があります 2, やや興味があります 3, 普通 4, あまり興味がありません 5, 興味がありません

4. バリ研修に参加したことによって貴方自身に変化がありましたか。

1, はい 2, どちらもない 3, いいえ

「はい」の場合何が変わりましたか。

5. バリ研修に参加して日本それから日本人についての見方が変わりましたか。

1, はい 2, どちらもない 3, いいえ

「はい」の場合何が変わりましたか。

6. マハサラスワティ大学の受け入れ体制についてどう思いますか。

1, 満足 2, やや満足 3, 普通 4, やや不満 5, 不満

なぜか理由を挙げてください。

7. バリ研修のプログラムの中、どんな活動が一番良かったと思いますか。

8. バリ研修のプログラムの中、どんな活動良くなかったと思いますか。

学年 : 1年生 2年生 3年生 4年生

性別 : 女 男

海外滞在経験 : あり なし

「あり」の場合は、どこ_____ 滞在期間_____

ご協力をありがとうございました。